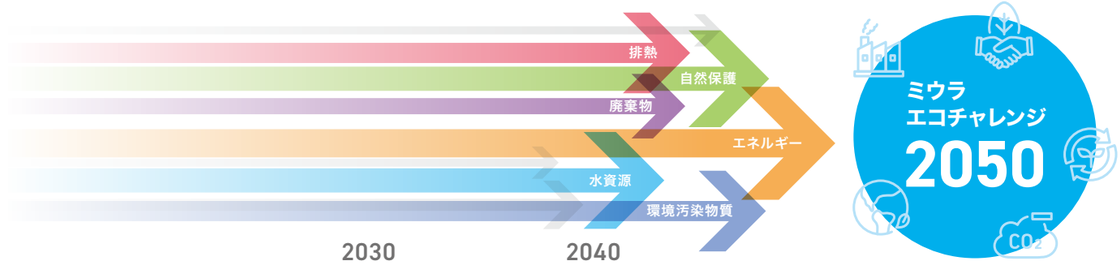
環境長期目標（ミウラ エコチャレンジ2050）

パリ協定の1.5℃シナリオおよび日本政府が掲げる2030年度のGHG排出量46%削減目標（2013年度比）をふまえ、事業活動および製品のライフサイクルにおけるGHG排出量・環境汚染物質・廃棄物・排熱・水使用量などを可能な限り最小化する「ミウラ エコチャレンジ2050」を2022年4月に策定しました。GHG排出量（Scope 1・2・3）の削減に加え、排出物リサイクル率向上、水使用量削減に関する定量目標を設定しています。

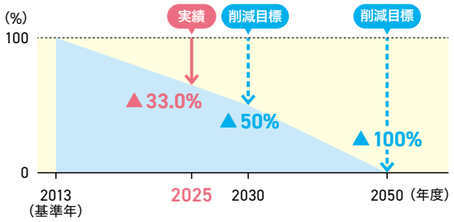


ミウラ エコチャレンジ 2050

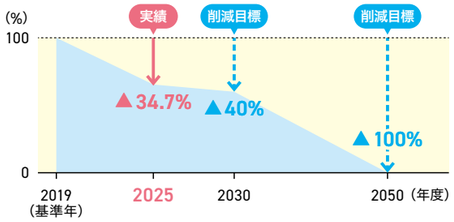
ネットゼロへの取り組み

- 省エネルギー活動によるGHG排出量（Scope 1※1・2※2・3※3）の削減
  算定範囲は、三浦工業および国内グループ ※4

● Scope 1・2 排出量



● Scope 3 排出量（売上原単位）



目標達成のための施策

- 溶接ロボットやコンプレッサ、射出成形機器等を省エネモデルへ更新
- 太陽光発電設備、照明のLED化、遮熱材の導入
- 空調デマンド制御によるエアコンの省エネ設定
- 上記の自助努力を実施のうえ、目標に対して実績がともなわない可能性がある場合、グリーン電力およびJ-クレジットの購入

目標達成のための施策

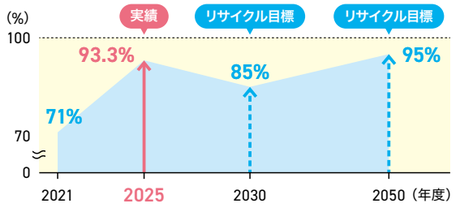
中長期にわたる2段階の削減戦略として、

1. ボイラの燃料転換（油→ガス）と高効率化、廃熱回収・未利用熱回収、省エネ診断
2. 新燃料対応（水素、アンモニア等）およびメタネーション対応、トータルソリューション提案の推進

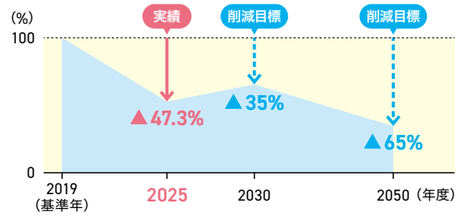
資源循環社会への取り組み

- 国内工場の廃棄物の削減（排出物のリサイクル率向上）
- 国内工場の水使用量の削減　算定範囲は、三浦工業（支店を除く）および国内グループ ※4

● 排出物のリサイクル率



● 水使用量（売上原単位）



目標達成のための施策

- ごみ分別
- リサイクル率向上のためのリサイクル会社開拓
- サプライヤーからの梱包材の削減化や通い箱の活用化
- 再生しやすい素材の部材の選定
- 端材が出ない加工品の購入

目標達成のための施策

- 排水リサイクルシステムの導入
- 試運転方法見直しによる水使用量の削減
- 雨水利用

自然共生社会への取り組み

- 「ミウラの森」森づくり活動を通じた自然保護と「ビオトープ」の維持

有害物質抑制社会への取り組み

- グリーン調達の推進による有害物質含有の低減
- 環境事故ゼロ

環境に優しい社会への取り組み

- LCA（環境影響評価）の指標および枠組みの決定と評価
- 国内・海外グループ会社の環境データの一括管理および環境活動の強化

ミウラのScope1・2・3の算定範囲

お客様による当社製品使用時のGHG排出量もScope3として把握し、削減に取り組んでいます。



※1 Scope 1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）、温対法基準（エネルギー起源） ※2 Scope 2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用にともなう間接排出 ※3 Scope 3：Scope 1、Scope 2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出） ※4 当該ページの「三浦工業および国内グループ」は、三浦工業、三浦マニファクチャリング、三浦アクアテック、三浦工機、三浦環境マネジメント、ミウラ・エス・エー、ミウラジョブパートナー